

10. 妊娠牛及び子宮内死亡胎子から*Prevotella*属菌が分離された一事例

大分家畜保健衛生所

○（病鑑）安達恭子・病鑑 河上友・手島久智

【はじめに】

*Prevotella*属菌は人の子宮内膜炎や妊娠性歯肉炎の原因菌の一つとして知られているが、国内で、牛の流死産胎子から分離された報告はない。今回、胎子死亡に伴う化膿性子宮内膜炎を発症したホルスタイン種妊娠牛及びその死亡胎子から*Prevotella*属菌を分離した。また、牛における*Prevotella*属菌の保有状況調査を行ったので、その概要を報告する。

【病性鑑定牛の概要】

乳用ホルスタイン種148頭（搾乳牛101頭）を飼養する酪農家で、平成27年4月、妊娠5カ月の初妊牛が食欲廃絶、子宮膨満、外陰部からの汚れた粘液の排出等の症状を呈した。超音波画像診断で子宮内胎子の死亡を確認。管理獣医師が補液やホルモン剤投与による治療を行うも母牛の回復、胎子の娩出には至らず、予後不良により鑑別殺を実施。

【病性鑑定結果】

解剖検査では腹腔内臓器への線維素の付着と、子宮内胎子の腐敗を確認した。病理組織学的検査では化膿性子宮内膜炎、肝臓及び脾臓の化膿性炎、間質性腎炎、心外膜炎、心膿瘍を認めた。細菌検査では母牛の脾臓及び死亡胎子の肝臓、心臓から*Prevotella*属菌を分離した。血液検査では、白血球数、GOT、BUNの上昇が認められた。以上の結果から、本牛は*Prevotella*属菌の関与を疑う化膿性子宮内膜炎および全身性化膿性炎と診断した。

【*Prevotella*属菌の保有状況調査】

牛での*Prevotella*属の保有状況及び子宮内膜炎等の繁殖性疾患への関与についての調査を目的に、管内酪農家3戸が飼養するホルスタイン種31頭の唾液からDNAを抽出し、PCR法により検出を行ったが、全頭で検出されなかった。

【まとめ】

今回、妊娠牛及びその死亡胎子から*Prevotella*属菌が分離され、その後、ホルスタイン種での保有状況調査を行ったが検出には至らなかった。乳牛の流死産発生率は4%から8%と報告されているが、原因は多種にわたり究明に至らないことが多いため、原因究明の一助となるよう、今後も調査を進めていきたい。